

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 元 年 9 月 1 0 日

事業所名：川崎市北部地域療育センター

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	1		
	②	職員の配置数は適切であるか	4	2	利用者5名に職員が3名体制で支援を行った為、一人ひとりの子供や保護者と関わりが持つことができた。	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	3	3	支援を行うなかで絵カードや写真を活用している。 2Fの保育室はトイレが隣接していないので移動の必要があるが、クラスを設定する際に移動やトイレに支障のないお子さんのクラスを設定をするようにしている。 活動によっては居室内の空間が広すぎてしまうこともあるため、パーテーションを置くなど空間設定の工夫をしている。	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4	2	クラスの空気の入替えや使用する物の消毒により清潔な環境設定に努めている。	建物自体が古く、使いづらいところが目立つため、他部署とも相談しながら工夫に努めていきたい。 建物自体が狭いと感じる場所があるため、空間の設定をより良くできるように考えていきたい。
	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	5	1		

業務改善	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	1	アンケートの実施を通じて保護者の意向の把握に努めている。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	1		
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6	0		
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	0	研修内容の検討は随時必要と考えるが、伝達講習を行うなど全体の知識向上に努めている。	今後も職員の資質向上のための研修計画の作成・遂行に努めていきたい。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6	0		
	⑪	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	2		
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5	1		
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6	0		
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	1	リーダーが原案を作りその後チームで検討を行うことで合理的に進むようにしている。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	0	活動の水準や種類がお子さんの様子や課題にとって適切な内容になるよう吟味している。	

関係機関や保護者	⑩	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	6	0		
	⑪	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	0	打ち合わせのために十分に時間が確保できるよう努めている。	
	⑫	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	0	支援終了後には必ず職員間の打ち合わせを行い、対応や認識の共有の機会となるように心掛けている。	
	⑬	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	0	クラス日誌に“次回に向けて”などの欄を設けてより良い支援ができるよう工夫している。	
	⑭	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	6	0		
	⑮	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	1		
	⑯	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4	2		適切な返答ができるように、もっと各部署と深く関わることができるよう努力していきたい。
	⑰	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	6	0		
	⑱	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	5	1		
	⑲	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	0	幼稚園や保育園の訪問を積極的に行い、情報の共有に努めている。	
	⑳	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	1		

との連携	②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	2		
	②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3	3	保育園との交流を年3回実施し、交流する機会になるよう努めている。	
	②⑨	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	3		
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0	活動以外の時間(自由遊びの時間など)の機会をとらえ、保護者と情報共有の機会の確保に努めている。	
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4	2	家庭でも出来る課題をお伝えし、実践してもらっている。	
	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0		
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6	0		
	③⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	0	保護者から申し出があればその都度クラス外の時間でも可能な限り相談に応じている。 活動後に懇談会を実施し相談に応じられるようにしている。 また、その内容は、他の担任とも共有し今後の支援に生かしている。	

保護者への説明責任等	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	2	父親交流会を開催し、お子さんの様子の共有を行い、家庭での子育ての関わりの幅を広げる機会になるよう、また保護者の仲間づくりのきっかけになるような機会の提供を心掛けている。	
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0	担任の判断だけでなく専門職にも相談し、保護者に返答できるようにしている。	できるだけ早く対応するよう心掛けているが、担任を介して他部署（専門職等）と連携を取るとなると返答が遅くなってしまうことがあるので、より良く対応ができるよう工夫していきたい。
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	0		
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意しているか	6	0		
	③⑨	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0		
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6	0	センターが企画するおまつりを開催し、地域住民に案内を出している。また、関係機関からの出店なども要請している。	
	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	0	6	各種マニュアルを作成し周知している。	
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	0	月1回の避難訓練を実施している。	
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4	2	健康問診書などを通じて把握している。	

非常時等の対応	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	0	契約時に栄養士と看護師がお子さんのアレルギー聞き取り、また主治医からの指示書の内容を担当間で漏れのないよう共有している。	
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	1		
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	2		
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4	2	危険を回避するための方法（姿勢保持など）も保護者に伝え、行う対応も具体的に計画内容に明記している。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。